あの世にまつわるマダガスカルの伝統

ヘリンジャトヴォ・エイメ・ラミアリソン

ランバで包みなおされた遺骸

マダガスカルは世界で四番目に大きな島である。グリーンランド、ニューギニア、ボルネオ、その次がマダガスカルだ。アフリカに、より正確いうとインド洋に位置する。マダガスカルはそのユニークな自然―マダガスカル固有の動物相や植物相―で世界に知れわたっている。島は熱帯に位置するが内陸は四季をもち、おだやかな気候をもつ。冬にはこの地帯は気温が零度まで下がるが、雪は降らない。多くの文献は、この島に最初に人間が渡ったのは一五世紀であると述べている。しかし、アンタナナリボ大学の私の同僚の人類学者によれば、ずっとさかのぼること石器時代にすでに人類が暮らしていたという。

そうだとしてもアジアからの移入が現在のマダガスカル人の形成に果たした役割は大きい。研究者の多くは最初の移民はインドネシアからだったと主張する。事実、マダガスカルの風習はわれわれがムスリムの支配を受けていたことを示している。例えば我々は割礼の儀式を行うし、豚は食べない。豚肉はフランスの植民地政府がもたらしたものだ。さらに、他のアフリカの国々と異なり、マダガスカル人はひとつの言語のみを話す。地方にはそれぞれの訛はある。マダガスカル人はアフリカの人々のうち最もアジアに近いのである。

さて、来世にまつわるマダガスカルの伝統をご紹介しよう。一八世紀に西洋の宗教が伝わり人口の半数弱の人々がキリスト教に改宗した。しかしマダガスカル人の神の受け止め方は変わっていない。私たちはひとつの神を信じているが、われわれの多くはなくなった親たちが完全に死んだのではなく異界に暮らし「ラザナ」（＝先祖）になったと信じている。われわれは直接神とは話ができない。神の祝福とご加護を求めるのであればラザナを介さなければならない。従ってラザナはわれわれの生活において大切な存在なのだ。ラザナを大事にあつかい、尊敬の念を払わなければいけないのである。ラザナが住むとされる地は「タニンジャザナ」と呼ばれ重要な意味を持つ。そこは私たちが生を受けたこの地上ではなく先祖の人たちが昔から（一〇〇年以上前）住んでいた場所なのだ。タニンジャザナに先祖達は「ファサンジャザナ」と呼ばれる先祖の墓を建てた。そこに彼らは埋葬され、そして私たちも死んだらそこに戻ることになる。生きているあいだはどこでも行けるが死んだらマダガスカル人はすぐさま、または何年かしてタニンジャザナに帰らなければならない。遺体は土葬にふされ霊魂をその場所にお送りするために葬儀が執り行われる。ファサンジャザナは石で作られいろいろな意匠がある。しかし共通する点は地下が何層かに分かれていることだ。それぞれの階には寝台がいくつか並べられている。それぞれの家系に寝台が割り当てられており、一つの寝台に二〇～三〇人が肩をならべて横たわっている。数日（地方によっては数カ月）続く葬儀の間、何頭かのウンビまたはゼブ（牛）が屠られる。通常、絹で織られたランバと呼ばれる伝統的な織物に包まれ、ファサンジャザナに供犠されるのである。これはラザナを崇めるための第一の儀式である。これによりラザナは正しい地位が与えられ神と生ける人々との間の仲介役の役割を務められるようになるのである。ラザナを崇める第二の儀式は「ファマディハナ」という。遺体の方向を変えるという意味であり、次のように進行する。まず、ファサンジャザナを開く、遺骸を取り出す、あたらしいランバでもって再度包みなおす、そして安置されていた場所に戻すのである。これらが儀式の全部だ。しかしファマディハナはお祭り的な時間でもある。普通は一週間続く。そこでは親戚や村人が集い伝統的な料理を食べ、踊りを踊り、歌を歌い、飲み交わすなどして大いに気を晴らし、活力を養うのである。人々はこれまでのご加護に対しラザナに感謝の念を表し、そしてこれからもっと祝福されること願う。ファマディハナは年一回、秋の収穫のあと行われる。ファマディハナは死後、異なった場所に埋葬されていた人々をタニンジャザナに連れて行くという儀式でもある。経済的な理由で親類が身内の死後すぐにタニンジャザナに送り届けることができないことがある。そのようなときはタニンジャザナへの埋葬まではやくとも一年は待たねばならない。

以上、マダガスカルの人々が神と祖先をどのように信仰しているか、そしてかれらとどう日常生活を送っているかご理解いただけたらさいわいである。

ファザナと呼ばれる墓

Ramiarison Herinjatovo Aime／海外客員研究員

Professor of Economics, Department of Economics, Faculty of Law, Economics, Management and Sociology, University fo Antananarivo　滞在期間　2009/11-2010/5
研究テーマ：Assessing the Developmental Role of ODA in Developing Countries of Asia and Africa